JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	イベントレポート: PICMET'14 in Kanazawa 北陸有力企業12社がMOT実践報告
Author(s)	井川, 康夫
Citation	産学官連携ジャーナル, 10(9): 53-54
Issue Date	2014
Type	Journal Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/12360
Rights	Copyright (C) 2014 科学技術振興機構. 井川康夫, 産学官連携ジャーナル, 10(9), 2014, pp.53-54. 本著作物は科学技術振興機構の許可のもとに掲載するものです。
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

イベント
レポート

PICMET'14 in Kanazawa

北陸有力企業 12 社が MOT 実践報告

技術経営国際会議として世界最大級の PICMET(Portland International Conference on Management of Engineering and Technology)'14 が石川県金沢市の ANA クラウンプラザホテル金沢で 2014 年 7 月 27 日～ 31 日に開催された。筆者はこの会議の日本招致に関わり、現地側主催者の立場であったので、その視点から本会議に関する報告をしてみたい。

●概要
PICMET'14
日時：2014 年 7 月 27 日（日）
～ 31 日（木）
場所：ANA クラウンプラザホテル金沢
主催：PICMET-Japan

■ 2003 年から毎年開催

PICMET は、1989 年米国オレゴン州ポートランド市 Portland State University(以下「PSU」) の技術経営学部を母体として設立された非営利団体が開催している。1991 年に第 1 回の会議を開催、2003 年から毎年開催している。西暦奇数年は米国、偶数年は米国外で 7 月下旬～ 8 月初旬に 5 日間にわたって開催している。米国外開催は 04 年韓国・ソウル、06 年トルコ・イスタンブール、08 年南アフリカ・ケープタウン、10 年タイ・プーケット、12 年カナダ・バンクーバーに続き 6 回目の 14 年は日本の金沢市での開催となった。米国開催は昨年シリコンバレーのサンノゼを除き全てポートランド開催である。

技術経営 (Management of Technology：以下「MOT」) は、イノベーション実現を中心に企業競争力を向上させるために技術を有効に活用する企業経営の事で、高度技術社会における新しい経営学として発展している。米国では 1980 年代から注目され、高等教育機関に多くの MOT コースが作られ企業競争力強化につなげてきた。PICMET CEO で PSU 学部長の Kocaoglu 教授はこの分野の発展に貢献してきた世界的リーダーの一人である。

基調講演

代表 Dundar Kocaoglu 博士のあいさつ

■テーマはインフラとサービスの統合

この会議は世界各国から招致のアプローチがあり、日本への招致活動を開始したのは 2011 年 8 月初旬のポートランドでの PICMET'11 の会期中であった。東日本大震災直後の時期で、会議参加の日本人関係者が集まり、日本の復興を目指すためにも招致をしようとの意見がまとまり、PICMET 本部に提案した事がスタートであった。欧州、アジア、南米の諸国が招致に手を挙げていると言われる中、翌年の米国本部視察を経て金沢市での開催が決定、2012 年 7 月バンクーバーでの PICMET'12 で正式発表に至った。日本側準備委員会が組織され、筆者は丹羽清東京大学名誉教授と共に共同議長として、PICMET 日本支部

と地元の JAIST(北陸先端科学技術大学院大学) がホスト役を務める形で準備を進めた。幸い石川県、金沢市からの助成や全国区大企業や地元有力企業から多くの協賛を得て開催に至り、参加者数約 530 名 (うち、海外からは 34 カ国約 330 名)、発表論文数約 380 件という過去最大規模となった。

コンファレンステーマは、新興国の効果的発展と先進国の持続的な発展にとって重要で日本が競争力を持つ「インフラストラクチャーとサービスの統合」に設定、MOT 全般テーマを含めて基調講演と査読論文発表が行われた。さらに米国本部と議論の結果、日本語特別セッションを設定、現地有力企業 12 社の MOT 実践報告を日本語で行うイベントを設け世界へ向けての発信機会とした。現地 4 企業のサイト訪問にも多くの見学者が集まり、日本企業の技術的先進性を世界に印象付けることが出来たと考えている。

日本語特別セッション

パーティー会場

PICMET コンセプトに、基調講演を大会場で参加者一同の中で行い、論文発表は 13 程度の並行セッションで実施、参加者が宿泊するホテルで開催というものがある。しかもそのホテルは主要公共輸送機関からの接続で徒歩圏内という条件が加わる。さらに開催地の魅力として歴史と文化あふれる都市という条件もある。開催費用面も考えると、これらを満たせる会場はそれほど多くない。参加者の声を総合すると、今回の開催はこれら諸条件を満たして充実した学術的議論ができたと理解され、招致に携わったものとして安堵（あんど）している。

■世界的に企業参加減少傾向

MOT 分野の学会が果たすべき役割の議論が行われた。重要な認識の一つに、世界的にこの分野への企業参加が減少傾向にあるとの指摘がある。MOT は企業現場で起きている事を説明できねば学問としての存在意義はなく、PICMET では従来から Research Paper に加えて、Applications Paper(Industry Application) というカテゴリーでの論文投稿を奨励しているが必ずしも企業の関心を高めるには至っていない。これをどう改善するかが近年の議論であり、今回の会議を後援した日本の関連学会・組織の共通認識ともすべきで、こうしたイシューを議論する場としても有意義であった。今後、企業現場での技術経営に関係した何らかの新たな視点を議論できる、産業界からの成功・不成功を含めた事例の発表を奨励していくことが一つの方向であろう。

（井川康夫：北陸先端科学技術大学院大学 副学長 知識科学研究科 教授）